

いすみをもっと、すきになる

magazine



OPEN ▶▶

いすみ市で、自分らしい
仕事で生きる人たち。

いすみの魅か発見マガジン

2020

ISUMI CITY

房総半島の南東部にある千葉県いすみ市には、美しい里海や里山があり、イセエビやタコをはじめとした海の幸や、ブランド米などの農産物が豊富で、のどかな田園風景の中を走る、どこか懐かしいレトロないすみ鉄道や、美しい星空が人気です。

そして注目したいのが、いすみで起業して、自分らしい仕事をして生きる、魅力的な人たち。

このマガジンでは、いすみの魅力的な「人」「場所」等の資源を発掘・紹介しています。様々な魅力溢れるいすみへ、ぜひ足を運んでみてください。



CONTENTS

02 | 不思議な魅力を持ついすみ。最高の夏をいすみ鉄道でおいかけ

11 | フォトスポット溢れるいすみ市の「小商い」な自分らしい生き方に触れる。
手づくりマーケット「ホーフ市」レポート

20 | 暮らしの選択肢を広げる
「#秋のいすみ取材旅」レポート

28 | 都心から特急電車で約70分。
ふらりと行けるその場所に、満天の星が眠っている。

36 | 「二拠点生活をはじめたら、好きな写真も仕事になった」
彼が“移住”した先で手に入れたもの



magazine



OPEN ▶▶

不思議な魅力を持ついすみ。
最高の夏を
いすみ鉄道でおいかけ

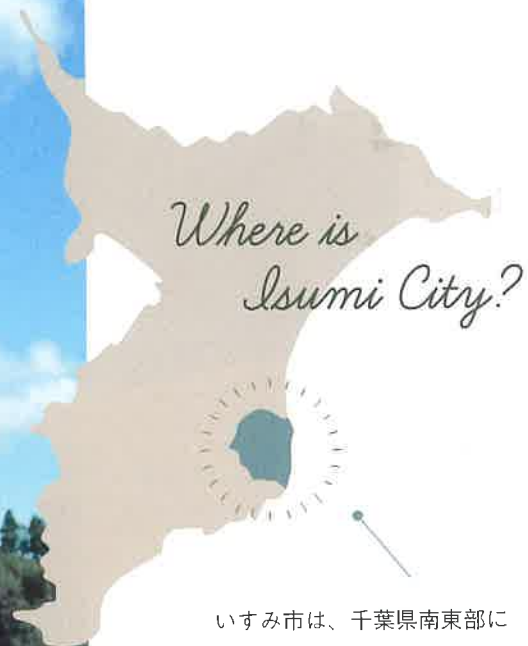
01

2019.8.10

不思議な魅力を持ついすみ。

最高の夏を いすみ鉄道でおいかけて

今回はとびきり夏が似合う「千葉県いすみ市」をご紹介します。いすみ市を走り抜けるいすみ鉄道沿線をフィールドとして、いすみ鉄道のスポットをたっぷりお届けします。



Where is
Isumi City?

いすみ市は、千葉県南東部に位置する市です。市内には海と山とが共存しており、農業や漁業が盛ん！年間を通して温暖な気候で、まさに自然あふれるまちです。

いすみ鉄道の夏のポートレートをぜひ楽しんでみてください！！

go!

SPOT 01

第二五之町
踏切

空と踏切と田んぼで味わう夏

いすみ鉄道は、千葉県の大原駅～上総中野駅間を運行している鉄道です。東京駅～大原駅までは、特急電車で約70分で到着。都心からもサクッとアクセスできます。



最初の舞台は上総中川駅と国吉駅の間にある「第二五之町踏切」です。



壮大な景色

何がイイって、
空と踏切とで描く

黄色い車体が
とっても可愛い!

clickety - clack
clickety - clack



もうすぐやってくる、
稲穂が黄金色になった景色を想像しながら、「また来たいな」と思わせられる、そんな景色でした。



どこか懐かしさを感じる、
木で作られた待合室。

SPOT 02
上総中川
駅
KAWASAKI-KAWA STATION



列車が到着。
黄色い車体が映えます。

列車を待つ夏の駅で



夏っぽさがそこら中に
転がっています。

SPOT 03

国吉駅

木漏れ日と無人駅で味わう夏



枕木の連絡通路です。
かわいい。



国吉駅の推しポイントは、木漏れ日とベンチ。
ホームの奥にある大きな木の木漏れ日が最高です。



いすみ鉄道を巡った夏の一日。
撮った写真を眺めながら
記事にまとめていくと、
灼けるような暑さも、
髪をゆるするそよ風も……
素敵な風景に魅せられました。
この magazine と
少しでもいすみの良さが
伝わったら嬉しいです。

magazine

OPEN ▶▶

ファトスポット溢れるいすみ市の
「小商い」な自分らしい生き方に触れる。

手づくりマーケット
「ホーフ市」レポート

02

2019.8.10

東京から特急電車で約70分。
電車で揺られたり着く、
夢中でシャッターを
切りたくなってしまうまち。



いすみ市で育つ

「小商い」とホーフ市

「いすみ市は、小商いを行う人たちが集う場所」と私が最初に耳にしたのは、このいすみ市への取材が決まったときでした。お話を伺いに向かったのは、いすみ市で開催されていた「ホーフ市」。今回はこの地に根を張り小商いを行なっている方々にお話を伺ってみました。

※「小商い」とは

思いを優先させたものづくりを

お客さんに直接手渡し、

地域の経済を活性にさせる商い

(磯木淳寛さん著書「小商い」で自由にくらすから抜粋)

マーケットを
主催するお二人

市場さん

松永さん





「Another Belly Cakes」磯木知子さん

店舗を持たないケーキ屋「Another Belly Cakes」
ブース前には行列が続き、マーケットを賑わせていました。



どんな小商いをしているの？



地元の旬素材を使ったケーキを無店舗で販売しています。
営業スタイルはマーケットへの出店がメインです。
月に1度だけ工房をオープンし、ちいさなお店を開いています。

「似顔絵屋☆シミキョウ」清水京子さん

個性的でゆるいイラストがトレードマーク。
ご本人の和やかな雰囲気がイラストへ映し出されていました。



どんな小商いをしているの？



フリーのイラストレーターで今回は似顔絵のイラストを描いています。
来てくれた人と少し話しながら、イメージを掴んだ後に描くスタイル。
その人の内側にある心が滲み出るようなイラストを描きたいんです。



「おにぎり工房かつあん」坂本勝彦さん

いすみ米で愛情たっぷりのおにぎりを握ってくれる。
いすみ市の田園風景に一目惚れし、いすみ市に移住を決めたそう。



どんな小商いをしているの？



いすみ米を使用したおにぎり屋を商いしています。
平日は自宅の隣に作った店舗で販売していて、
週末はこんな風にマーケットに出店しています。
いすみ米をもっと多くの人に知ってもらい、届けたいと思っているので。

「金属造形工房ひなハウス」池田ひなこさん

2018年に25歳の若さでいすみ市に単身移住した池田さん。
きっかけは、グループ展でのアーティストとの出会いでした。



どんな小商いをしているの？



銅と真鍮（しんちゆう）を使ったアート作品を作っています。
フリーランスとして空きスペースを活用したシルバーアクセサリ教室
や展示会を中心に活動しています。

no5 / 一点モノハンドメイドの洋服ブランド



「sayasaya」松永さやかさん

ホーフ市を主催しながら、自身もオリジナルブランドを展開。
ひっきりなしにお客さんが訪れていました。



どんな小商いをしているの？



すべて1点ものの手作りの洋服ブランドを立ち上げています。
その人の体型に合わせた、心地よい服づくりを心がけています。
実際に会って喋ってみて、顔の見える距離でのものづくりが、
sayasaya の洋服の魅力です。

no6 / アジアンカフェ食堂

「チャナリーフ」迎忠男さん・裕美さん

笑顔がとても魅力的な迎さんご夫婦。ご主人はキッチンカーや、
このマーケット「ホーフ市」の会場装飾も手掛けています。



どんな小商いをしているの？



いすみ市の森の中でアジアンカフェ食堂を運営しています。
店舗を構えつつもマーケットやイベントも並行して行うのは、
やはりいろいろな人に会いたい思いが強いからなのだと思います。

magazine



OPEN ▶▶

暮らしの選択肢を広げる
「#秋のいそみ取材旅」レポート

03

2019.11.23

等身大の自分を認めながら前に進む、

いすみ市の小商いな生き方

いすみ市で暮らす人たちの、

自分の好きなことややりたいことを

仲間達と叶えていく

出店者の方々の生き方は、

私の仕事の考え方の中に

新たな選択肢を

気づかせてくれた気がしています。

本当に「起業したい」と思った時、

頼れる先輩方や整った環境のある

いすみ市だったら、

始めやすいと感じました。





「#秋のいすみ取材旅」
2日間でいすみ市を巡る

「#秋のいすみ取材旅」は、2019年11月23日～24日にかけて、いすみ市の資源・魅力を発信することを目的として開催されました。今回は取材旅で訪れた6つのスポットを順番にご紹介します。



「星空の小さな図書館」 三星千絵さん

みんなが一息つける「場」をつくるため、古民家の納屋を改装し、小さな図書館をいすみ市にオープンさせました。



Q どうしていすみ市で図書館を開こうと思ったのですか？

A 誰もが身近に感じられる場所をつくりたいと思ったからです。人の集う空間で、私が好きな「本」で何かしたいと考え、図書館をつくりました。

Q 訪れる方は市内にお住まいの方が多いですか？

A 市内の方もいれば、近隣の市町村や東京から来てくださる方、いろいろですね。親子連れでふらっとドライブなんてことも多いです。

「ブラウズフィールド」中島デコさん

マクロビオティックと呼ばれる食事法を実践しながら、カフェや宿泊施設などを営み、暮らしています。



Q どうしてここで暮らすことになったのですか？

A たまたま、と言うのが一番しっくりきますね。5人の子どもを産んで育てて、次の暮らしを考えるときに、自然のある場所で暮らしたいなと思ったことがきっかけです。

Q カフェのランチは、この土地で栽培されている食材を使っているのですか？

A なるべく、家の畑か地元の季節のお野菜を使い、「マクロビオティック」と呼ばれる料理をご提供しています。

「green+」御田勝義さん、亜季子さん

green+ は、JR長者町駅から約10分の場所にあり、東京からいすみ市に移住した御田さんご夫婦が営まれています。



Q オーガニックの料理と出会ったきっかけを教えてください。

A 「ブラウズフィールド」の中島デコさんの元で働き始めたことがきっかけです。自然豊かな暮らしに興味があって、いすみ市を訪れました。

Q エコアパートについて教えてください。

A カフェの隣に、同じ間取りの部屋が4棟並んでいて、移住された方に住んでいただいています。お住まいの方は僕らと同じ子育て中のご家族です。

no.4 / アジアンカフェ食堂

「チャナリーフ」迎忠男さん、裕美さん

南インドにあるケララ州への旅で体験した自然豊かな暮らしにインスピレーションを受けて、アジアンカフェ食堂をいすみ市にオープンさせました。



Q どうしていすみ市でカフェを開こうと思ったのですか？

A いすみ市でたまたま紹介してもらったのがこの場所でした。自然豊かな南インドの空気を思い出せるから気に入ったんです。

旅が好きな2人なので、トリップ感あふれる空間創りと料理をしながら、生活の中に音楽やエンターテインメントがあるような、いつまでも「変化する暮らし」を楽しみたいです。

no.5 / 朝市

大原漁港「港の朝市」

いすみの朝を彩る「港の朝市」は、毎週日曜日の朝8時から正午まで大原漁港で開催されています。



- 1 ジュウジュウと食材を焼く音・醤油の香ばしい匂い。たまりません。
- 2 タコ飯やイセエビのお味噌汁など、朝から贅沢な食事。お味噌汁を一口すすってみるとじんわりとした温かさが身体に広がります。
- 3 “モーニング”のフレーズが似合いそうな珈琲屋さんも発見。いすみの朝は、バリエーション豊かです。

高秀牧場「ミルク工房」馬場温香さん

「牛の尊さや酪農家の仕事を知ってほしい」という想いで地元産の野菜や果物を使ったジェラートなどが食べられるお店をいすみ市にオープンさせました。



Q 高秀牧場・ミルク工房について教えてください。

A ミルク工房のジェラートや乳製品は、高秀牧場で育てた牛の搾りたての牛乳で作っています。牧場は広大な敷地の中にあり、飼育している牛の数は150頭。毎日、2トンの乳量を

出荷しています。牧草やトウモロコシなどの作物を自給生産して、循環型酪農と呼ばれるエコな牧場のスタイルを保っています。工房は牧場のすぐ隣にあるので、大好きな牛の近くにいられて幸せだなど思います。

magazine

OPEN ▶▶

都心から特急電車で約1時間。
ふらりと行けるその場所に、
満天の星が眠っている。

04

2019.11.23

location : 荒木根ダム



都心からふらりと行けるその場所に、 満天の星が眠っている



お話を聞いた人

フォトグラファー

草原学さん

千葉県いすみ市の星空に惹かれて移住を決めた男性がいます。名前は、草原学さん。美しい星空を求めて日本全国を撮り歩いたという草原学さん、なぜいすみ市への移住を決めたのでしょうか。今回は「いすみの星空」をテーマに、草原学さんにお話を伺いました。

星空を撮り始めたきっかけからおすすめスポットまでたっぷりとお話をしてくださった草原学さん。



Q 草原さんが星空を撮り始めたのはいつ頃のことですか？

A たぶん20年前くらいですかね。

Q きっかけはなんですか？

A 北アルプスの燕岳に登ったときに、空を見上げてみたら満天の星が広がっていて——その美しさを「写真に収めたい」「他の人にも見せたい」と思って星空を撮っていたら、いつの間にか夢中になっていました。

Q 最初は何のカメラを使っていたか？

A 最初は、キヤノンです。本格的に撮るようになってからはEOS10D。

A 今は、5DMarkIV、SONY α7RIII、ニコンのD750とAPS-Cのミラーレスをいくつか使っています。

Q 星空を撮影するときは、どんなレンズを使いますか？

A よく使っているのは、シグマの14mmの単焦点です。あとは、キヤノン24mmF1.4の単焦点も使います。

Q ズームはあまり使いませんか？

A あまり使わないですね。単焦点の方が明るいレンズが多いですし、星空を撮影するときは手元が暗いので、できるだけシンプルな装備にしたいので。





Q レタッチはしますか？

A 露光量を上げたり明瞭度を上げる程度です。環境光などの影響で星が目立たないときなどは調整します。星景写真はそのままでは未完成な場合が多いので、多少なりともレタッチは必要だと考えています。

Q 今はいすみ市に住まわれているんですね？

A いすみに来たのは54歳の時で、星空を撮り始めてから14～5年くらい経った時のことでした。

Q どういう経緯で、いすみで暮らそうと思ったのですか？

A 星を撮るのが好きになってから、北海道から沖縄まで、全国を回ったんです。その中で、住みやすく美しい星景写真や天体写真が撮れるの

location：荒木根ダム

■がいすみでした。それまでの生活とさほどのギャップもありませんでしたし、友人が東京からふらっと遊びに来れる距離にあることも魅力でした。僕自身も東京や神奈川で暮らしていた時は、金曜日に仕事が終わってからいすみに来ていました。それに、いすみでは一年中星が撮れるのが嬉しいんです。例えば、山登りをしながら星空の写真が撮りたいと思っても、冬は雪が降るので撮りに行くのが大変ですよ。同じ理由で東北や甲信越も難しい。あと、強い光が入りにくいという点では、いすみにはナイター設備を持ったスキー場やゴルフ場がないのも良かったです。

いすみは、星の素晴らしさだけではなく、初夏には市内のいたるところでホテルが舞い、フォトジェニックないすみ鉄道もあります。これだけ恵まれた環境の場所はそうないですね。

Q 実際に東京から引っ越してみても、不便だと感じることはありますか？

A 特にありませんね。東京に住んでいたときと暮らしが変わったわけで

■はありませんし、東京まで特急電車を使えば約1時間あれば行けますから。強いて言うとしたら、新月の夜が暗すぎて玄関で鍵穴が見つけれられないことくらいかも(笑)。

Q 代表を務められている「いすみ星空学校」では、どんな活動をしていますか？

A 「いすみの星空の魅力を多くの方に広めたい」という想いで、まず、この地域に暮らす方、近隣の方へ向けた星空観望会や、星のソムリエ®養成講座を開いています。東京から越してくると「星空が綺麗なこと」は感動するポイントです。自分たちが「当たり前」と思っていることでも、外の人から見たら感動するポイントが、いすみにはたくさんあります。

Q いすみで星空を撮り続けている草原さんがおすすめする、星空撮影に向いているスポットはどこですか？

A 僕にとって、いすみはどこでも星空の撮影スポットになりますが、強い■

▼て言えば景勝地の「津々ヶ浦」です。星と大小の岩を合わせて写真に収めると、とても魅力的です。あとは、展望台のある「万木城」や、いすみ鉄道の踏切と星を一緒に撮れる「第二五之町踏切」、一部の天体マニアに有名な「荒木根ダム」、桜と菜の花の季節が特に魅力的な「高秀牧場」です。

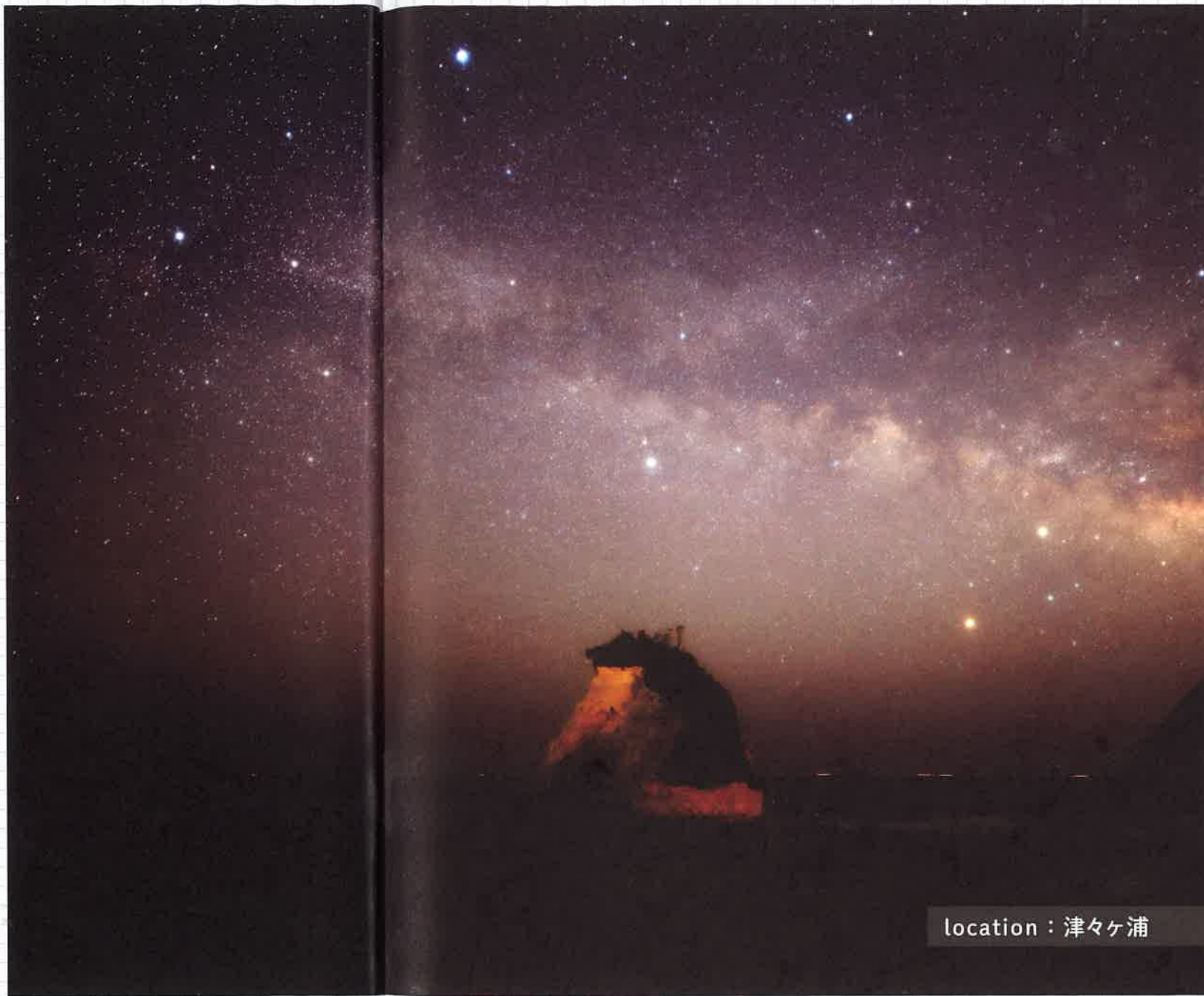
Q どのようにお気に入りのスポットを見つけていますか？

A 夜に車を走らせて撮影スポットを探しています。季節、時間帯、天気によって星空の表情は変化するので、道端でも撮りたいと思う瞬間があれば撮ってしまうんですよ。東京から通うのではなく、いすみ市に移住して良かったのは、この「撮りたい瞬間」にたくさん出会えることかもしれません。桜やホテルと星空など、四季で星空を楽しめるので、とても良いですよ。

いすみ星空学校



星空写真 提供:草原 学



location : 津々ヶ浦



location : 第二五之町踏切



location : 高秀牧場

また星空を撮りにいすみに来たい。
そんなふうに思える取材でした。

写真をもっと、すきになる

magazine



OPEN ▶▶

「二拠点生活を始めたら、
女子きな写真も仕事になった」
彼が「移住」した先で
手に入れたもの

05

2019.11.24



移住をしていなければ、 写真が仕事になっていなかったかもしれない

お話を聞いた人
デザイナー兼フォトグラファー
荒川慎一さん

今回は趣味だった写真が仕事になった、千葉県いすみ市と東京とで二拠点生活をするデザイナー兼フォトグラファーの荒川慎一さんの元を訪れました。「東京からいすみ市へ移住をしていなければ、写真が仕事になっていなかったかもしれない」と話す彼は、一体どのようにしてデザイナー兼フォトグラファーになったのでしょうか。



「何でも聞いてくださいね」と穏やかな面持ちの荒川さん。まずは働き方やお仕事の内容などから伺いました。

Q 拠点によって仕事を分けている、ということですか？

A 東京といすみでは「会社」を分けているんです。東京では『D-KNOTS (ディー・ノッツ)』の屋号で、グラフィックデザインの仕事を請けています。

いすみでは同じ地域に暮らすクリエイター数名で、ローカルな仕事を専門にしたチーム『なみわい企業組合』を立ち上げました。自治体の広報誌や観光協会のウェブサイト制作、近隣地域の卒業アルバム、農産物のパッケージ、地元企業のパンフレットなど、地域に根ざした仕事を手がけています。

Q 普段、どのような仕事をされているのか教えてください。

A デザイナー兼フォトグラファーとして活動しています。デザイナーとしては、広告やブックデザイン、Web制作などを行っており、フォトグラファーとしては、近隣地域の小学校の卒業アルバムや写真集などの撮影を行っています。

Q 今は、東京といすみ市とで二拠点生活をされているんですね。

A いすみ市で暮らしながら、東京には週1~2回の頻度で通う生活を続けています。東京では、基本的にデザインの仕事がメイン、いすみではデザインと写真の仕事を請けています。



Q 移住する前はどのようなキャリアを積んでいたのですか？

A 大学卒業後にデザイナーとしてグラフィックデザイン会社で働いていました。その後、独立して『D-KNOTS (ディー・ノッツ)』を立ち上げています。

Q デザイナーを本業にしつつ、並行してフォトグラファーとしてのキャリアを積んでいたということですか？

A 写真を撮ることが仕事になったのは、いすみ市に移住した後のことです。

いすみに移住し、 写真を撮ることも仕事になった

Q 写真を撮ることも仕事になったのは、どういったことがきっかけだったのですか？

A 海が見える街で暮らしたいと思い、東京からいすみに移住したことがきっかけです。初めはデザインの仕事をしていたのですが、写真の仕事の相談を受けた際に、気軽に頼めるフォトグラファーがいなくて困ったことがありました。

もともと、写真は趣味だったので、写真を外注できなくても何とか力になりたいと思ったんですね。そこで「一流のフォトグラファーのクオリティにはまだ届かないかもしれないけれど、僕が写真も撮りましょうか？」と提案したことが始まりでした。

東京にいた頃は、優秀なフォトグラファーが周りにたくさんいたので、まさか趣味だった写真が仕事になるとは思ってもいませんでした。いすみに移住して、気がいたら、自分自身がフォトグラファーになっていました。



『なみわい企業組合』を立ち上げた
地元のニーズに応えるために

Q 『なみわい企業組合』の立ち上げは、いすみや外房エリアで働くクリエイターの力を集結させるためですか？

A 東京で働いているときは、ひとつの分野に特化したプロフェッショナルが評価されていました。ところが、その限りではない地域もあります。クリエイターの少ない地域では、企画・制作・発信を総合的に行う必要があります。例えるなら「広告代理店の仕事をひとりでこなせ

る人材」が求められているんです。僕も、2つの肩書きを持っていますが、クライアントからの依頼のすべてに応えることができなかったんです。そこで、クリエイターそれぞれの専門性を活かしたチーム『なみわい企業組合』を立ち上げました。異なる得意分野を持つ4人のクリエイターを集めて仕事を分担することで「幅広い制作業務を一気通貫して手がけてほしい！」という地元のクライアントの期待に応えられる体制ができました。



Q 東京からいすみに移住して、働く上で必要な心がけや意識などは変わりましたか？

A 大きく変わったのは「信頼関係」のあり方です。東京では、エンドユーザーの顔が見えないことがよくありました。

でも、いすみでは、クライアントもエンドユーザーも知り合いなんてことがよくあります。つまり、良くも悪くも世間が狭いので、信頼を失ってしまったら、取り返すのがとにかく大変なんです。でも、質や納期などの信頼、人としての信頼を保ち続けることが大変な一方で、嬉しい反応もダイレクトに伝わってくるので、とっても面白いですね。

エンドユーザーの反応を 間近で見られることが、 いすみでのやりがい

Q 荒川さんがいすみと東京の二拠点生活を続ける理由を教えてください。

A 単純に、いすみは東京とはまったく違う暮らしができるからです。そして、仕事上では、人との関わりの中で生まれるやりがいがあるからです。

東京で働いていた頃は、反応をもらえるのはもっぱらクライアントの声とネットで見る口コミくらいでした。自分の制作物を見たエンドユーザーが、どんな表情になり、どんな言葉を発するのか。それを直に体感できることは、なかなかありません。

いすみでは人との距離が近いので制作物に対するエンドユーザーの反応が直接見られます。自分たちが手がけた仕事自分たちの地域を元気にできる実感もあります。例えば、面識ある農家さんの野菜が、クライアントのカフェで調理され、知り合いがお客さんとして

■ 食べに来る——そんな光景が日常にあります。

お客さんのことを想って手がけたデザインや写真が、誰の笑顔に繋がっているのか、自分自身の目で、直接見られるんですよ。その反応がダイレクトに見れることほど、

■ やりがいを感じることはないと思うんです。移住をしなければ味わえなかった嬉しさだなと思います。

D-KNOTS



なみわい





P.22

1

星空の小さな図書館

千葉県いすみ市能実969
日月 13:00~19:00

P.23

2

ブラウンスフィールド

千葉県いすみ市岬町桑田1501-1
金土日祝 (祝日のみ不定休)
11:00~17:00

P.24

3

green+

千葉県いすみ市岬町井沢 300-1
金土日 11:00~17:00

P.25

4

チャナリーフ

千葉県いすみ市岬町中滝2072-3
土日月火 11:30~15:00

P.26

5

大原漁港「港の朝市」

千葉県いすみ市大原11574
毎週日曜 8:00~12:00開催

P.27

6

高秀牧場「ミルク工房」

千葉県いすみ市須賀谷1339-1
10:00~17:00 木曜定休

P.11-19

7

hinode

「ホープ市会場(年2回)」

千葉県いすみ市深堀1712-1
9:00~18:00

いすみ暮らし情報サイト <http://uji-isumi.com/>

移住・創業に関するお問い合わせ

千葉県いすみ市水産商工課 移住・創業支援室

TEL:0470-62-1332 E-mail:uji@city.isumi.lg.jp

発行元:千葉県いすみ市

企画制作:第一プログレス

この事業は、いすみ市起業家発掘及び情報発信業務によるものです。